

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	萩市立明倫小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	3	27	40
児童数	144	152	151	140	146	127	10	870	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力を育む教育の実践 ～主体的な学びを通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年、2年、3年、4年、5年、6年、特殊学級での算数  
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・ 1年、2年、3年、4年、5年、6年、特殊学級での国語  
算数科を中心として、取り組んだ成果を他教科に生かす多様な実践を行うため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 児童一人一人をつかむ評価、それを生かした指導・支援のあり方 研究の見通し(仮説) 「評価方法を工夫しながら、一人一人の学習の状況を的確に把握し基礎・基本の定着を図りながら、一人一人に応じた指導・支援を行えば、考える楽しさやできる喜びを感じ、自ら学び、自ら考える児童に育つであろう。」</p> <p>研究の内容・方法 確かな学力の向上をめざした研究実践 〔指導体制の工夫〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アシスタントティーチャ - (1年生36人以上の学級に配置された指導助手)との協力の模索</li> <li>・ 算数科を中心とした少人数でのより効果的な指導体制、学習過程の模索、小学校における効果的な教科担任制の模索</li> </ul> <p>〔評価と指導の一体化〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材教具(発展的・補足的な学習を含む)の工夫</li> <li>・ レディネステストの活用</li> <li>・ 学習過程の工夫</li> <li>・ 児童による授業評価を生かした授業の改善</li> </ul> <p>〔生活学習(授業時間以外の学習)の工夫〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始業前時間の効果的な活用</li> <li>・ 家庭学習の工夫</li> </ul> <p>〔主体的な児童を育てる生活科・総合的な学習の授業研究〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きて働く力を育てる学習過程の工夫</li> <li>・ 一人一人のよさや可能性を引き出す評価の在り方</li> </ul> <p>地域・家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組の情報提供の場の工夫</li> </ul> <p>他校への研究内容の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロンティア事業地区協議会での取組の紹介</li> <li>・ 県内各フロンティアスクール、萩教育事務所管内小中学校への研究内容のリーフレットでの紹介</li> </ul>
--------	--

平成  
15  
年度

### テーマ

個に応じた多様な実践

#### 研究仮説

「評価方法を工夫しながら、一人一人の学習の状態を的確に把握し、一人一人に応じた指導・支援を行うことで、基礎、基本の定着を図れば、考える楽しさやできる喜びを感じ、自ら学び、自ら考える子どもに育つであろう。」

#### 研究の内容・方法

フロンティアスクールとして実践研究を進めるにあたり「研究の視点」として、次の3点があげられている。

- ・ 個に応じた指導のための教材開発
- ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
- ・ 児童の学力を生かした指導の改善

また、山口県では、次の視点をあげている。

- ・ 児童生徒による授業評価を生かした授業改善

児童の学力向上をめざすには、これら4点は単独で行うものではない。例えば「個に応じた指導のための教材開発」をするためには、「児童の学力をしっかりとつかみ、指導方法や指導体制」も考慮しながら教材の開発をしなければ、十分な成果は得られないというように、絡め合いながら実践するものである。そこで、研究組織を変え、実践研究のための切り口として、各学年で重点とする視点を決めて、実践研究を行った。

〔発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発〕

1年国語科	「書く力」を育む教材の開発
2年算数科	「かけ算九九学習」で多様なコースを設け意欲を高める教材開発
3年国語科	「表現力を高める」ための教材開発
4年算数科	既習学習の確実な定着を図るプリントの作成
5年算数科	全学習単元でゆとりと思考を育む学習プリントと提示物の作成
6年算数科	6年間のまとめを意欲的に取り組む問題解決的教材の作成

〔個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善〕

#### ・ 少人数指導体制

領域や学級の実態に応じて、機械的2分割、課題別、興味・関心別、習熟度別グループ編成やティームティーチングを取り入れ実施した。

数と計算	習熟度別グループ編成中心
量と測定	ティームティーチング、課題別グループ編成中心
図形	ティームティーチング、機械的2分割/課題別グループ編成中心
数量関係	習熟度別グループ編成中心

#### ・ 教科担任制

第6学年では、教師の専門性を生かした授業の実践、他学級の傾向や実態を参考にして、相乗的に授業の質を高めるとともに、より多くの目で児童のよさを見取り、適切な支援や評価を行う教科担任制を実施している。

(算数科):「教材研究を深めるとともに、多様な授業の展開の工夫」

(社会科):「多様な考え方や追究・表現方法を広める工夫」

(音楽科):「グループを生かしたコース別学習や地域の専門家の指導の導入」

〔児童の学力の評価を生かした指導の改善〕

単元ごとに指導内容を選択して評価項目を精選し、授業中の児童の様子を評価することで、授業を振り返り、次時の授業に生かすようにした。また、学習が十分にできない場合は、始業前学習のように入会、児童が復習できるように課題を準備し、主体的に取り組めるようにしてきた。

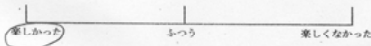
(4)年( )組 評価補助簿 3学期

教科	算数	単元名	角と角度				総時数		10時間	
			評価観点	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解	単元の点	単元の点	
番号	氏名	評価項目(方法)	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解	単元の点	単元の点	単元の点	単元の点
			関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解	単元の点	単元の点	単元の点	単元の点
1			0	0	0	0	0	0	0	
2			0	0	0	0	0	0	0	
3			0	0	0	0	0	0	0	
4			0	0	0	0	0	0	0	

〔児童による授業評価を生かした授業改善〕

算数アンケート

① 「わり算」の学習は楽しかったですか。



② とくに楽しかったのはどんなことですか。

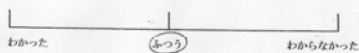
- ア ブロックをつかってわけかたを考える
- イ あまりのあるわり算の計算をする
- エ わり算のきまりを見つける
- オ 答えのたしめをする
- その他( たし )



③ おもしろくなかったのはどんなことですか。

( )

④ 授業がよくわかりましたか。



⑤ その他先生につなごうたいことや感想を書いてください。

ふろくをつかってわり算のしかたのしくわり算のきまりを見つけるのがたのしかったです。

学習状況により単元末や単元途中に左記のような児童による授業評価を行い、個に応じるための資料として、授業改善に生かしてきた。特に、教師の見取りが難しい一人一人の「関心・意欲・態度」や自己達成感を見取ることを中心とした。児童による授業評価を実施し、授業改善をしていく中で、五感をしっかりと使った体験的学習活動、自分なりの試行錯誤が認められる活動を含んだ授業展開が必要とわかり、それらを取り入れた学習活動を仕組むよう努力してきた。

また、その成果の検証は十分にはできていないが、児童の意識調査からみると、授業評価を生かして指導の工夫が、児童の学習意欲に生きていていると感じている。

その他

特別支援学級における個に応じた学習指導。

各学年の重点項目

- 1年 音読・日記指導を通じた言語活動
- 2年 かけ算九九の習熟
- 3年 漢字・かけ算とわり算の習熟
- 4年 漢字の習熟・県内市町村名とその位置・わり算の習熟・四季の自然観察
- 5年 全国の都道府県名、漢字・ローマ字の習熟・小数のかけ算・わり算の習熟
- 6年 既習漢字の読み書き、日記等を通じた表現力の育成

平成16年度

テーマ

主体的な学びを支える個に応じるための多様な実践の統合

研究の見通し

中心教科の実践の成果を他教科へ広げるとともに、体系的にまとめる。

研究の内容・方法

2年次の課題をもとにした実践

- ・ 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
- ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
- ・ 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
- ・ 児童生徒による授業評価を生かした授業改善
- ・ その他

### (3) 研究推進体制

昨年度は、教科研究部・生活学習（始業前の学習や家庭学習）研究部の組織で実践研究を行ってきた。しかし、低学年・中学年・高学年と3つの職員室があり、日々の情報交換や実践内容の検討が難しいという反省がでた。そこで、本年度は、各学年4クラスあることを生かし、教師それぞれの考え方やアイデア、技術・技能を出し合い伝え合う協力体制を今まで以上に強化し、それぞれの研究の視点のもと、学年・学級の児童の実態にあった方法で実践研究してきた。

そして、成果の上がったことを全校に伝え・広めるといった体制で推進してきた。また、少人数指導担当を3・4・5・6年に配置し、教材の開発、他学年との成果の情報交換に努めた。また、効果的な少人数指導について検討し、その成果を他教科に広げようとしてきた。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

主体的な学びの姿を通じた確かな学力の向上をめざし、実践研究を行ってきた。教員の多様な取組の中から、より児童の学習状況を的確に把握するための方法を検討し、それを生かした指導體制・指導方法、教材の開発等を行い、以下のような児童の学びの変容や指導者の意識の改革等の成果があった。

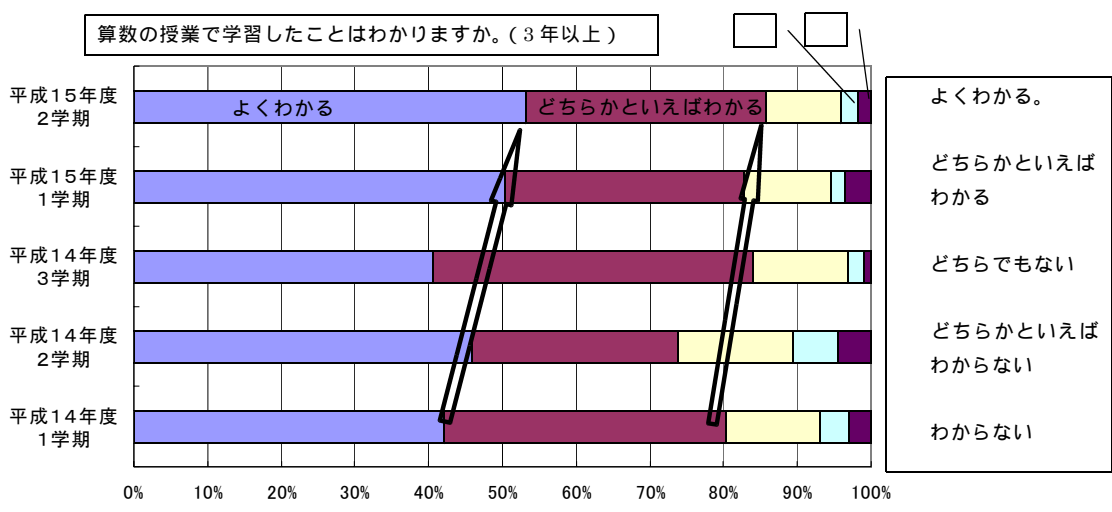
実践を通しながら教材の工夫を行うことで、意欲的に学習に取り組む児童が増えてきている。

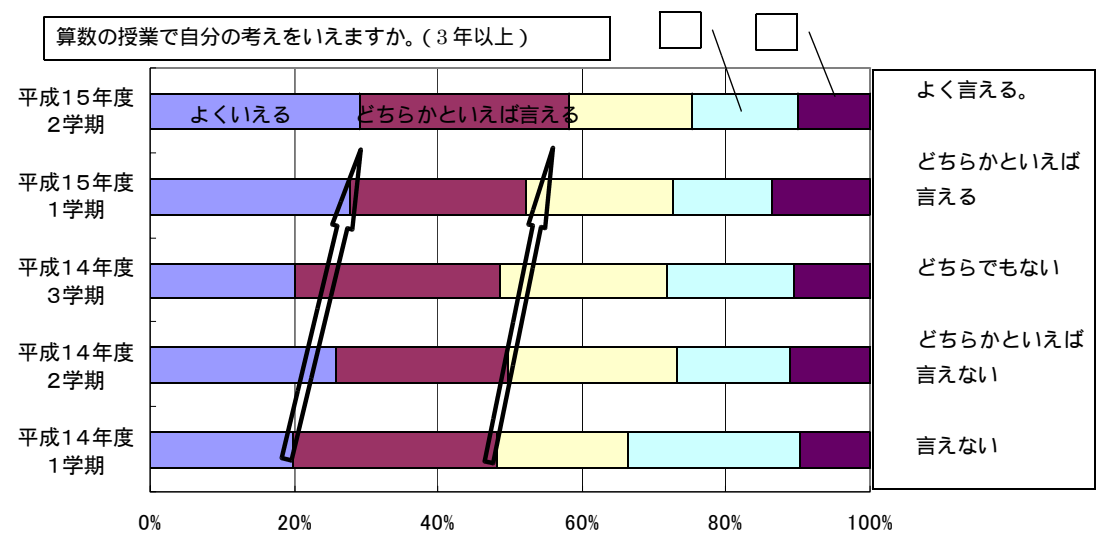
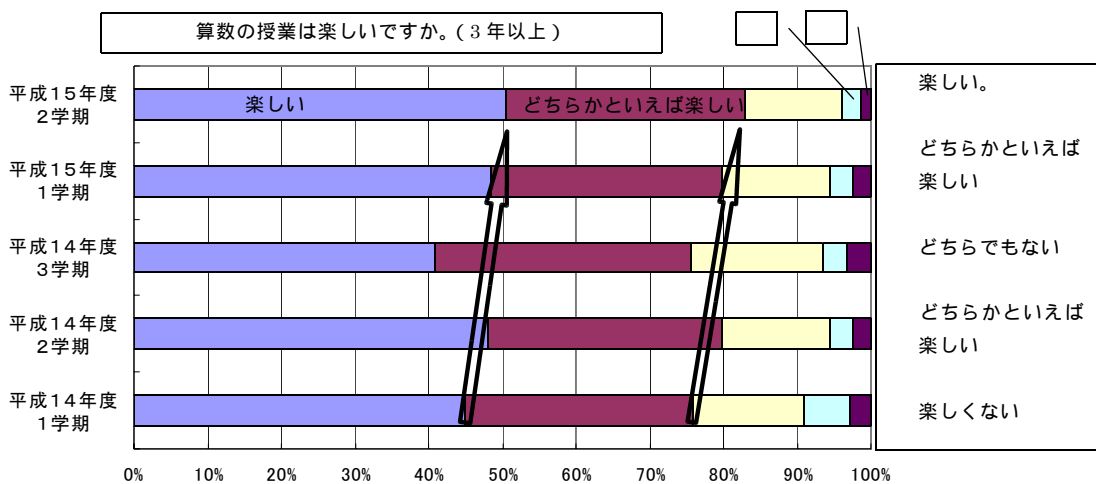
児童の学力を随時評価しながら、個人差に応じた指導に努めることにより、学習好きの子どもが増えてきている。

計画的な始業前の学習や家庭学習の課題を工夫することで、既習学習の定着を図ることができた。

少人数指導を3年生以上の全クラスで実施したことで、個に応じるための検討が全校的になされ、指導者側の意識が変わった。

児童による授業評価を実施したことで、より楽しい授業・よりわかる授業のための指導方法や指導體制への糸口が見えてきた。





算数科評価テストの結果(3年生以上)

	思 考	表現・処理	知識・理解	平 均
平成14年度1学期	83.0	87.5	87.0	85.8
平成14年度2学期	85.6	91.2	92.0	89.6
平成15年度1学期	83.9	87.8	89.0	86.9
平成15年度2学期	87.9	93.0	90.3	90.4

2. 今後の課題

個に応じるため、単元や教材ごとに、より効果的な学習過程や教材を工夫し、児童の学習意欲を高める必要がある。しかし、一つの学校であらゆるものを工夫することは難しい。学校間の連携を今以上に深め、教材のやりとりをしながら多様な教材を準備し、児童の学習状況に合わせ使用する環境づくりが必要である。

より授業改善を図るためには、児童の学習の状況を的確につかむための評価規準や評価方法・評価場面について検討する必要があるが、評価に偏った授業にならないよう指導過程を仕組む必要がある。

確かな学力の向上のためには、中心教科の成果を他教科に広げる工夫が必要である。

中学校と連携し、小中学校9年間を見通した実践をする必要がある。

個に応じた各種実践を行うには、打ち合わせや教材をつくる時間を確保するための工夫が必要である。

保護者との連携を一層深める工夫をする必要がある。

## 学力等把握のための学校としての取組

児童の学習に関する意識調査（平成14年度1学期より） 目的：同じ項目の意識調査を全校的に行い児童の学習に対する変容を捉える。 実施内容：質問項目6、理由記述項目4 実施時期：毎学期末（年間3回）
評価テストの実施及び全校での結果検討（平成14年度1学期より） 目的：学習内容の状況を捉える。 実施時期：テスト・・・単元終了時 全校での検討・・・毎学期末（年間3回）
学力診断テスト（平成15年度より） 目的：学力を多面的に捉える。 実施時期：平成16年2月

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

校内研究授業の公開 日時：平成15年11月12日 平成15年11月19日 平成15年12月8日 会場：萩市立明倫小学校 対象：萩教育事務所管内の各小中学校 目的：日頃の実践を他校と共有化し、授業力を高めた。
生活科・総合的学習学会全国大会（山口・萩大会）で授業提供 日時：平成15年6月21日 会場：萩市立明倫小学校 対象：全国の小中学校職員 目的：主体的な学びを通じた生活科・総合的な学習の時間の授業実践の公開。
萩市学校教育研究発表大会での研究発表及び資料展示 日時：平成15年11月26日 会場：萩市民館 対象：萩市内の小中学校教職員・PTA 目的：本校の実践研究の内容の紹介及び市内全体で指導案・教材集をつくる提案。
萩管内学力向上フロンティア事業地区協議会での授業公開・発表 日時：平成16年2月10日 会場：萩市立明倫小学校 対象：萩教育事務所管内小中学校教職員、保護者等 目的：実践研究（2年次）の紹介した。
実践収録（冊子）の配布 対象：県内のフロンティアスクール、萩教育事務所管内市町村教育委員会、県内全教育事務所、萩教育事務所管内全小・中学校等 目的：2年次の実践研究成果の普及
萩市内全小学校指導案集、教材集作成（予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T.Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無